

あとから来る者のために
坂村 真良

あとから来る者のために
田畑を耕し
種を用意しておくのだ
山を
川を
海を
きれいにしておくのだ
ああ
あとから来る者のために
苦勞をし
我慢をし
みなそれぞれの力を傾けるのだ
あとからあとから続いてくる
あの可愛い者たちのために
みなそれぞれ自分のできる
なにかをしてゆくのだ

U-net 通信

発行: NPO 法人地球環境共生ネットワーク 〒105-0013 東京都港区浜松町 2 丁目 7 番 18 号 第 1 小森谷ビル 6 階 TEL:03-6450-1194 FAX:03-6450-1195 編集人:U-net 発行人:比嘉照夫

令和 4 年 第 4 回 EM 技術セミナー

9月2日に U-net 会員対象の第4回 EM 技術セミナーがオンラインで開催されました。
今回はお二人の方に発表して頂きましたので、発表概要をご紹介します。

「沖縄県で実施中の学校向け環境学習について 2022」

EM 研究機構事業企画部 シンハ かおり

シンハかおりと申します。静岡生まれ、EM 研究機構では、EM 商品の営業と、小学校での環境学習や、地域でぼかし作りや活性液作りの講座の講師を担当しています。

EM 研究機構のオフィスは暮らしの発酵ライフスタイルリゾート内にあります。以前はホテルで毎月 1 回、定期的に EM 講座を開いていたのですが、コロナの影響で、2019 年からホテルでの EM 講座はほとんど実施していません。自治体や小学校から講座依頼があった時のみ実施しています。



那覇にある小禄(おろく)小学校では、別の学校から赴任してきた先生が、プール掃除には EM がよいと伝えてくださり、それをきっかけに 4 年前からプール掃除をスタートしました。1 校時はまず座学です。座学では、微生物とは、EM とは、EM を使ったプール掃除についてお話ししました。

2 校時は、クラスごとに分かれて活性液作りのワークショップを行いました。72 人が 2 リットルずつ作ったので、合計 144 リットル、これを 3 週間後に、プールに一斉に投入しました。少し足りない分は、私が持って行きました。この小学校は坂の中腹にあって、プールの入り口は 4 階にあり、生徒さんと一緒に活性液を持って下りたり、のぼったり 3 往復しました。

この学校の子供たちはすごく反応がよくて、毎回話す私も楽しくなってしまいます。生徒の作成した EM 新聞には、「菌は悪いものだと思っていたけど、いい菌がいることがわかりました」、「自分が菌を増やせるのは面白いと思いました」などの感想が記載されていました。



嘉手納高校はクラスごとにそれぞれ 2 校時、講習を実施しました。1 校時は微生物を使った水の浄化・エビ養殖の話、2 校時には活性液を作りました。5 クラスだったので、月曜から金曜まで毎日 1 クラスずつ講座を行いました。

中城(なかぐすく)小学校では、水の環境問題という観点で講座を行い、ZOOM を使って海外とつなぐという初の試みを行いました。結のエビは、タイのペッチャブリー地方で養殖されている、こだわりのエビです。タイの現地法人 EMRO アジアと、現地企業のニタヤファームが共同で養殖場を運営しています。養殖は本来水を汚すものとされていますが、EM を使うことで水をリサイクルし、なるべく環境に負荷をかけないようにしています。抗生剤などの薬を使わずに育てられたエビはとってもおいしくて、私たちのホテルで食べることもできますし、購入することもできます。その後の給食タイムには、結のエビがエビフライとなって登場して、子供たちもすごく喜んでいました。



↑ zoom でタイのエビ養殖場と小学校をつなぎ、質問を受けている様子

こういった講座ですが、無償でやるか、有償でやるか。皆さんはどのようにされていますか？以前、私たちは無償、ボランティアでやるが多かったのですが、最近は有償でやるが増えています。私たちは以前、無償でプールに活性液を入れるだけというパターンが多く、その場合、学校から依頼を受けて学校に行くと、プールに案内されて作業はEM 研究機構の職員だけで行うので、先生や生徒にEM のことを知ってもらうチャンスがほとんどありませんでした。活性液のタンクを運び、それを載せるトラックも必要だったので私一人では対応できず、複数人で作業していました。

そこで環境学習という形で生徒たちと一緒にEM を作ってプールに入れることを提案したところ、学校にはそのような場合の予算があり、資材代も出せるという回答をいただきました。EM のことを先生や生徒にしっかり伝えながら、活性液を作って、資材代もいただけるようになりました。生徒それぞれが、作った活性液の入ったペットボトルを持ってプールに向かうので、大きなタンクやトラックを使うこともなくなり、私たちの作業も半減しました。

中城小学校は無償でした。これは、給食の食材として小学校にエビの提供を行うことになったときに、その前に、環境学習をさせてくださいとこちらからお願いしたからです。講座では、水の問題と、エビ養殖の抱える問題点を説明して、結のエビは、微生物の力で水問題に取り組んでいますという説明をしました。ポケット Wi-Fi を用意して ZOOM でタイとつないだり、事前の準備も含めて大掛かりな講座でしたが、この講座はラジオや新聞でも取り上げられて、EM と結のエビの周知に効果があったと感じています。

1 年目は無償で 2 年目から有償というパターンもあります。問い合わせがあつて話を聞いたら、「今年はもう予算が厳しい」という場合には、「では今回は無償で行います、効果があれば来年は予算をつけてください。」と伝えて、実際 2 年目からは有償になるという場合があります。

有償で実施することで①活動資金が確保できる。②予算化される事で、学校の記録に残る。というメリットがあると、私は感じています。特に②ですが、公立の学校は、担当していただいた先生が転勤になってしまうことがあります。その場合でも、環境学習とか、資材代という項目で 1 年間の支出の中に入っていると、思い出していただけるきっかけになると思います。

「量子重ね効果で EM の能力をもっと引き出す」

小泉農園 小泉 章

小泉農園では長年 EM を使い続けて野菜を作っています。毎年 6 月から 7 月にかけて収穫する温室栽培の無農薬トマトは、全国に宅配販売もしているの、食べたことがある方もいらっしゃると思います。



今年のトマトは、活性液を毎日点滴で落とし続けることで、超常現象がたくさん起こりました。初期から生育が安定して旺盛で、一段目から食味もよく、収穫量も例年より増えました。何より、虫の発生が極端に少なくなりました。

昨年と違う所は、毎日点滴を落とすための設備を設置したことです。毎日、活性液の点滴を落とす、これが EM の量子重ね効果を増幅します。しっかりと結界が張られた畑で、いつものように活性液で水かけしたりスプレーしたりすることに加え、毎日点滴を落として重ね効果を積み重ねていくと、驚くような現象を見ることが出来ます。

それではまず、重ね効果活性液の作り方から紹介します。活性液づくりは、EM1 の情報が薄れていってしまうので、2 次活性液までと言われていましたが、比嘉先生が 3 次活性液以降の作り方を公開してくれています。2 次活性液を種菌に 3 次活性液を作るとき、種菌以外に EM1 を 1000 倍で添加します。3 次活性液を種菌にするときでも、4 次活性液を種菌にするときでも、EM1 を 1000 倍で添加すればいいだけです。培養する回数が重ね効果になります。小泉農園では、今 8 次活性液を作っています。毎回いい活性液が来ています。

整流炭も重ね効果で強力になっていきます。小泉農園の敷地内には竹やぶがあり、これを材料に炭作りをしています。無煙炭化器のような金属板の囲いの中で燃やしますが、小泉農園の場合、2~3 時間燃やすと大体 120~150ℓ くらい出来ます。重ね効果の方法は、燃やしている途中で、前回作った炭を 10~20ℓ くらい火にくべて一緒に燃やします。更に、EM ユーザー限定で販売されている EM グラビトン炭を、1.5~2ℓ くらい同じようにくべて燃やします。これで、前回までの炭の情報と、EM グラビトン炭の情報が熱転写されます。燃え切って火を消すときも、重ね効果活性液の原液をかけて消します。120~150ℓ くらいの炭なら、30~40ℓ もかければ消せます。

活性液も整流炭も重ねて作り続けることで、現場で使ったときの感触がどんどんよくなっていきます。EM を畑にまく回数、スプレーする回数が多ければ多いほど、重ね効果は累積していきます。量ではありません。回数です。結界をしっかり張り、酸化を進める農薬や化学肥料を入れないで、刈った草や落葉などの有機物を畑に入れながら EM を使い続けると、だんだん EM が活躍しやすい環境へと変化していきます。変化してくるのですが、進みが遅くて中々いい結果が見られず EM の効果を十分に感じられない方もいたと思います。整流結界の普及のおかげで、EM の効果を実感する方も増え、更にすごい現象が起こるように、比嘉先生もインターネットの連載「新、夢に生きる」等でたくさんの技術発信をしてくれています。

比嘉先生は「効くまで EM を使い続けなさい」、「何回も繰り返しまきなさい」と言われましたが、回数が多ければいいと言われても、一日何回も水かけには行けませんよね。そこで、比嘉先生が教えてくれたのが、EM の点滴施用法です。サンシャインファームでは生ゴミ処理バケツで、小泉農園ではコック付きの 20ℓ タンクで点滴を続けています。昨年の 11 月から温室に設置して続けていますが、効果絶大です。生育、収量、食味全てにおいて、量子力学的超常現象が起きています。

毎年トマトは 3 月下旬に温室に定植します。点滴の設備を入れ始めた 11 月は、ビーツが植わっていました。トマトの裏作にビーツを作っていますが、毎年作るたびに味がどんどんよくなっていきます。ビーツを食べたことがある人は分かると思いますが、多少泥臭い味がします。小泉農園のビーツはそれがなく、コーンのような芋のような甘さがあります。ビーツは砂糖大根の仲間で、肥料分を根こそぎ吸いにとって生育します。

肥料分を吸い尽くした後に、トマトを定植します。元肥は一切やりません。植え穴の中と株元に整流炭を十分に与え、あとは EM かん水、EM 散布です。点滴設備を入れて初めてのトマトづくりでしたが、生育初期から目を見張る生長でした。第三花房の花が咲き第一果房の実が見え始めた頃、初めて塩追肥をしました。すると、養分過剰のサインなのか葉カビ病が出ました。前作にビーツを作り、根こそぎ肥料分を吸い尽くした所に植えたトマトが、肥料が多いですというサインを出すのです。この後葉面散布を徹底し、塩の追肥もやらないことにしました。結果、葉カビはなくなり、平年作以上の収量、食味、品質向上となりました。

何より驚いたのは、毎年 7 月下旬には虫や病気が増えてきて収穫が終わりになるのですが、今年は初期に出た葉カビはなくなり、虫の発生も極端に少なくなったおかげで、8 月のお盆過ぎまで収穫出荷ができました。毎年決まった場所からアブラムシやコナジラミが発生していましたが、今年は発生せず、葉っぱや実を食べるイモムシ系の虫が出ただけでした。このイモムシも、根本に生えている雑草に住んでいて、いつもは雑草を食べています。暑さや水不足、手入れ不足などでトマトの樹が弱ると、雑草からトマトに登ってきて食害を始めます。この現象を見て分かったことは、トマトの樹の生育が生命力に溢れて微生物が呼び込む重力波エネルギーに満たされていると、虫もわからないし寄って来ないということです。毎年何回もやっていた塩追肥でしたが、今年は 7 月の後半にもう一度やっただけで、平年作より多く収穫出来ました。

これはまさに点滴設備によって起きた現象と言っていると思います。この点滴設備、点滴装置は、肥料で育てる農業から、重力波エネルギーで育てる農業へレベルアップさせてくれる秘密のアイテムなのです。条件が整った所に EM の点滴を毎日切らず続けてあげれば、肥料をあげなくても微生物が呼び込む重力波エネルギーをもらって野菜が育つようになるということが分かりました。

この点滴装置、効果絶大なのですが、維持管理が面倒で手間がかかります。活性液の 30~50 倍液を点滴で落とすのですが、タンクの内側にぬめりが出て汚れてきます。この汚れもあって、コックから落ちる水滴も、だんだん落ちなくなってきます。大きい容器にして何日も見に行かなくていいということにはなりません。しかも、内側の汚れはどんどんはびこってくるので、4~5 日おき、長くても一週間に一回は洗うようです。大容量タンクにしても、結局毎日見に行かないと止まったりしているし、週に一回は全部洗わなければならない。かなり手間ですよね。そこで考えたのが簡易点滴装置です。

この点滴装置、水滴が落ちるピッチの調整が出来ません。何回もやって分かってきたことは、最初は 2 日くらいで液がなくなりますが、2 回目以降は、よごれで詰まってくるのか 3~4 日もったりしてきます。そこで考えたのが、何本も設置する方法です。お金がかかる材料は一個もありませんし、作る手間も大したことはありません。だったら何本も作って設置すればいいと思いました。とても安く手軽に作れるので、汚れたら捨てて新しいものに換えることにしました。ボトルとフタは丁寧に洗って、水滴が伝うスズランテープだけ換えたりもしています。

畑に 4~5 本吊しておく、毎日見てあげられなくても、長くもつものが長いピッチで点滴を落とし続けてくれます。点滴開始の日にちと時間を書いておけば、どれくらいのピッチで減っていくか分かります。

簡易点滴装置の作り方

〈材料〉

1.5ℓ ペットボトル、セロテープ
ビニールテープ、スズランテープ
整流炭のかけら、
または、パイプ状セラミックス

〈道具〉

キリ、ハサミ



週に一回しか畑に行けない、毎日確認するなんて無理という人も、あきらめる必要はありません。毎日点滴すれば当然その分効果は上がりますが、一週間に一回 4~5 本吊して 2~3 日落ちたら終わりでも、何もしないより重ね効果は累積して上がっていきます。何日かおきに、2~3 日点滴が落ちることの繰り返しでも、重ね効果の累積ポイントは上がっていくのです。

累積ポイントが貯まっていくと、「超常現象」が勝手にやってきます。みなさんも是非この点滴装置を、3 本でも 4 本でも 5 本でも畑に吊して、「超常現象」を体験して下さい。

EMピューレの作り方は、諸事情で発表されていません。小泉農園のInstagramの中で詳しく紹介しています。ピューレを食べ続けていると、味覚や嗜好が変わってきます。甘い物の食べる量が減ってきたり、化学調味料が入った料理を美味しくないと感じたりしてきます。代わりに、添加物が入っていない発酵食品が美味しく感じるようになります。これは、体に負担をかける食べ物より、体にエネルギーを送ってくれる食べ物の方を求めるようになるからです。年齢が若いうちはそれほど差を感じませんが、年をとってくると顕著です。若くてそれほど違いを感じなくても、食べ続けていると体はどんどん軽くなります。



ピューレの重ね効果のやり方は、新しくピューレを仕込むとき、前回のピューレの残り液を液量の 3 割程度足してあげます。作るたびにこれを繰り返してあげれば、重ね効果が累積していきます。これに加え、フタを開けるたびに EM・X GOLD の強化液を毎回スプレーしてあげると、これも重ね効果でエネルギーが高まっています。

このピューレ、作り続けていくと、残り液がだんだん貯まってきます。飲みきれない分は、お料理に使ったりして活用しましょう。高エネルギーの果物ソースなので、色んな料理に活用出来ると思います。料理以外では、野菜や花の液体肥料としても使えます。エネルギーが高いので、EM7 のように使うといいです。500 倍とか 1000 倍だと濃いんです。5 千倍から 1 万倍、濃くても 3 千倍くらいで使います。どんな植物にかけても、めちゃめちゃ元気になります。小泉農園のInstagramを見て、みなさんも作って食べてみて下さい。

今年の 2 月に、比嘉先生のネット連載「新、夢に生きる」で僕が作った資料「500 年 1000 年未来に「愛」を伝える技術 EM 整流結界でテラプレタ土壤をつくる」を紹介していただきました。この資料に腸内細菌と意識が連動する仕組みについても記載があります。この資料は全部で 4 ページあり、前半の 2 ページだけ公開してもらいました。読んで後半 2 ページも読みたいという方がいましたら、U ネットの事務局の方へお問い合わせ下さい。

小泉農園のInstagramは、2016 年から EM の技術発信を目的に始めました。近年、EM の技術も、量子力学的なことにとどまらず、言霊や祈りについてなど、説明するのが難しいことが増えてきました。そこで、やんわり分かりやすくその辺りのことを説明するために、野菜のキャラクターが活躍する漫画を描き、Instagramで発表し始めました。技術的な説明ばかりだと読んでもらえないので、ちゃんと面白おかしく漫画にしています。「小泉農園 Instagram」で検索するとすぐ出ますので、見に来て下さい。



「講評」

U-net 理事長 比嘉 照夫

本日は素晴らしい発表を聞いて講評はありませんと言いたいところですが、いくつかポイントを説明します。

まず、シンハさんの発表ですが、学校での EM 講習会において、学校予算で実施するところですが、予算化することで学校の記録に残ります。EM 講習会の予算と実施日が記録され、社会化されるシステムにつながります。こういう形になってくると、EM は社会の常識となり、何か起こったときには EM を使おう、という行動につながる素晴らしい取組みです。

もう1点は、プール清掃での EM 活用では、プールの四隅に整流ブロックで結界を作って取り組むと、更にすごい効果が現われますし、絶対に失敗せず効率の良い活動が実施できます。また、学校等での EM 講習会等で、EM を活用したタイのエビ養殖や、海外やその他の EM 事例紹介の取組みは、現在では zoom の時代になってきましたので、もっと上手に情報交換で活用してください。

小泉さんの発表は、エコピュアでも紹介しましたが(2022年2月新・夢に生きる第169回)

[<https://www.ecopure.info/rensai/teruohiga/yumeniikiru169.html>]、ここで重要なことは、量子重ね効果という難しい言葉です。比嘉セオリーのなかで両端に書かれていますが、エンタングルメント(量子もつれ)は、量子に対して働きかけると、ちゃんつながるといふ、人間の意識が色々なものにつながるといふことです。もう一つは、量子のエネルギーが人間の意志を通して重なって、整流されて、コヒーレント(量子うなり)が起きます。

エンタングルメントは、人間の意識やお祈りでも同様ですが、意識や想いが働くと(そこにそう思うと)、その意識や想いがつながるといふ事象が現われます。それに対して、エネルギーを集約するように努力を重ねて行くと、ある時期、ある量(閾値)まで来ると現実化します。

このような考えは、量子力学の根本なのですが、皆さんに理解させようとする、なかなか大変なことです。量子力学にはいろいろな定義があり、いろんな人が各々の考えを示しています。しかしながら、これらは理論の話であり、実際は、現実的にある物質的社会がだんだん細かいエネルギーになり、量子の世界(=何にでも変わる)、すなわち、万能的な世界、ある意味では霊界的な世界になっています。この万能的な、あるいは霊界的な世界は、素粒子の世界からエネルギーを集めようと思うと、従来の考え方では不可能です。しかし、これが現実になるためには、量子の世界で何が起きているかという、スピン現象と言って、素粒子がスピンになって動いている事象から考えます。(素粒子が)動いているので、エネルギーなのです。もう一つはバレー現象と言って、雷でも音でもなんでも唸ると、エネルギーに変換されます。これをバレーと言いますが、このスピンやバレーのエネルギーを集めようとする、炭(木炭等)の波動レベルを上げて受け止めさせるという仕組みを活用します。

もう一つは、私の書籍や連載コラム等を書いてきましたが、畑の地力そのものも、この量子のエネルギーを変換する力があり、要は、地力の DNA の総量で決まるということです。特に、光合成細菌のような機能性の高い微生物の DNA がじわじわと多くなると、有機物を施用しながら微生物が働きますので、すなわち、EM を活用し続けることで土壤の DNA 総量が向上するということになります。

1回で量をドサッとでなく、小分けで少量ずつでも活用し続けます。これを続けることが、「効くまで使い続けなさい」、そうすると、ある段階(閾値)で限界突破等の現象が発現します。また、畑からのエネルギーが逃げないようにするために、EM グラビトロン炭や整流ブロックで結界を作り、EM 活性液での点滴を続けると、周囲のエネルギーを呼び込み、使えるようになります。EM 活性液の点滴は、例えば、太鼓のように、強

く打とうが弱く打とうが、太鼓の面に沿ってエネルギーが広がって行くイメージです。それと同じような現象を畑に作って行くことができます。小泉農園のように、畑の1カ所や結界の上でもいいですが、点滴をポタポタと落とすと、結界がしっかり準備されていて、炭があちこちにあれば量子の重ね効果が効率良く発現します。とてもエネルギーが小さく、何にでも変わるエネルギーですが、何回も何回も重ねて無限大層を作ると、これが現実の生物やあらゆるものに働きかけ、小泉農園のトマトのような現象が出て来ます。

ここまでのレベルに到達すれば、以上の方法を作物が無くても1年中続けて点滴を行います。また、言霊もエネルギーですから、畑に入る前に結界のどこかにポールを設置する等して、ポールにスペースメイトを接触させながらEM讃詞を繰り返します。私も出張が減り時間ができたので、実験のために、畑に入る前にEM讃詞を実践して、植物の状態を観察しています。私の畑では、バナナのジャングルになっています。

毎朝畑に行くと、必ずEM讃詞を唱えます。EM活性液の点滴も生ゴミ処理バケツを設置していますが、毎日朝晩2回点滴の流れをチェックして、バケツもきちんと洗いながら行っています。1日約20-30リットル使用し、ポタポタと点滴されているか確認しています。先ほども述べましたが、何にでも変わるエネルギーは弱いですが、これをしっかりと集め、重ねて行くことが重要です。例えば、人間の仕事も同じで、良い形で重ねて行くことで自然に考えもクリアになりますし、物事の判断もきちんとできるようになります。自然界は量子の世界と現実の世界がつながっていて、量子の世界では、これまで説明してきたように、ずっとひたすらに良い内容を重ねて行くことがポイントです。小泉農園はほぼそのような段階に到達していて、どこに公開しても大丈夫だと言うレベルになっています。

発酵ピューレについては、小泉さんが説明された通りで、果物の皮や実を半年くらい浸けて熟成させて、それをクラッシャーで味噌みたいにします。発酵させているので、酸味が強いですが、酸っぱく我慢して食べるのではなく、砂糖を入れてEM・X GOLDを吹き付けて美味しいピューレとして食べるのがポイントです。

一般に、砂糖は悪いと思われていますが、砂糖はパワーの固まりなのですが、パワーの向きがマイナスかプラスなのかがポイントで、EM・X GOLDの力を借りてパワーの向きをプラスにして有効活用します。大げさに言うと、砂糖と発酵ピューレを半分くらいずつ混ぜると食べやすくなりますし、発酵ピューレを食べていると、他の甘いものが要らなくなります。我慢(酸っぱいまま食べる等)はストレスなので、EM・X GOLDを使って、砂糖等材料のパワーの方向とレベルを整えながら、正統派のパワーとして使えるようになります。昔は、砂糖はクスリだったと言われていましたが、今の砂糖はパワーはあるが、製造過程でエネルギーをたくさん使ってしまうマイナス方向になっているだけですが、EM・X GOLDを使いプラスの方向に整えたり、あるいは、長期間発酵させる等の方法と組み合わせます。発酵ピューレを長く発酵させると、パントエア菌という免疫ビタミンを産出する微生物がどんどん増えてきます。発酵ピューレを短期発酵で食べても良い(2週間)ですが、実際は半年から1年等、八丁味噌のように発酵熟成させたものを活用するのも良いです。微生物の世界は不思議な量子的な性質があり、EMがその固まりみたいなものなので、しかも、EMは自分でたくさん増やせますので、楽しみながら取り組むことができます。また波動的には、常にEM・X GOLDを活用(フタを開ける度に吹き付ける)すれば、独自の健康食品を作ることができます。

最後に、畑も身体も基本的にはみんな微生物で出来ています。そのなかで、量子の世界からエネルギーを変換する仕組みを考え、EMのような有用な微生物を上手に活用します。要するに、量子もつれと量子うなりが連動するように、想念の管理とEMを活用して常にパワーが強化するように心掛けて行くことが重要です。最終的には言霊もそのパワーにつながって行きますので、炭(整流炭やEMグラビトロン炭等)やEM・X GOLDを上手に活用し、機能性や波動を上げて行く手法を工夫して取り組んでいただければと思います。結界を作り(整流炭やEMグラビトロン炭、整流ブロック等)、整流されたエネルギーが逃げないようにし、重ね効果で成果が発現するように、回数を1回だけではなく、どれだけ回数を重ねるか、効果が出るまで使い

続けるということが大切なポイントです。今日の小泉さんの実践報告は、とても楽しいお話しでしたし、しかも、コストがかからないという点を再認識して、再学習していただければと思います。

【質疑応答】

◇点滴を畑に設置する際の目安は？

成果ができるように、量と回数を増やすことに取り組んで、自分が実行して初めて分かるので、実践してください。(小泉農園では、反当たり 1.5L のペットボトル作った点滴を 5~10 本くらい設置)

◇良質な EM 活性液の作り方と畑の管理方法は？

塩が 1%となる濃度で EM 活性液を作成すると、変質しない良質な EM 活性液ができます。畑を囲むように EM 整流炭で結界を作り、良質な EM 活性液を用いて管理してください。繰り返しになりますが、望ましい成果が得られるまで、微生物 (EM) の濃度が上がるように量と回数を増やす等で管理します。また、不耕起栽培することで、腐植も増加し、土壌病害や害虫の害を回避できます。塩で除草し、刈草などの有機物は畑の表面に敷きつめて、有機物を切らさないようにしたうえで、良質な EM 活性液で管理します。また、植穴や植え際に EM 整流炭を活用することで、植物が健全に成長します。

沖縄に台風接近のニュースがありますが、実際はそよ風程度で心地よい天候です。台風の進路予報円が定まらない台風で、小笠原では勢力の強い台風で、更に勢力を強めて南大東島に接近する予報でしたが、琉球列島の結界の東端が南大東島になっていますので、台風 5 号 (2022 年 7 月下旬) はその結界に沿って北に進路が向かいました。今回の台風 11 号 (2022 年 9 月) は、同様に結界に沿って南にずれていて、現在の予報では、宮古島と石垣島の間を通過して北上するとされています。しかし、結界が石垣島までなので、石垣島と西表島の間を通過してそれていくかと思われます。また、結界に台風が当たると、整流されるので、台風の衝撃波が弱く、結果的に大東島の台風後の映像では、サトウキビが一定方向に倒れていました。通常は、台風の衝撃波の影響で、サトウキビは渦を巻いたようにグシャグシャになります。

このような衝撃波が弱い現象は、この 8 年間の台風で観察されています。一般に、台風の東側の風が強いと言われていますが、沖縄に近づく台風の風は弱くなっています。また、暴風域も大きく発達せず、竜巻のようにコンパクトになってきています。もちろん台風中心は強い勢いですが、規模は小さく、被害が広がらない現象がここ 5-6 年で見られています。琉球列島の結界状況について、気象台の予報発表と照らし合せて見守りたいと思います。各家庭での EM 結界を徹底して、自然災害対策はもちろん、快適な住環境の創造に取り組んで、楽しんでください。(以上は 2022 年 9 月 10 日時点の講話)

★令和4年第4回 EM 技術セミナーダイジェスト版 動画視聴のご案内 (会員様限定)

9 月 2 日に開催された第 4 回 EM 技術セミナーの発表の様子をまとめたダイジェスト版動画を配信期間中、インターネットに繋がるパソコン、スマホがあれば、お好きな時間に視聴できます。

【配信期間】 10 月 21 日 (金) の朝 9 時~10 月 24 日 (月) の夜 9 時まで

視聴をご希望される会員の方は **10 月 17 日 (月)** までにお名前と、「ダイジェスト版視聴希望」と
標題に明記の上、事務局 (info@unet.or.jp) へメールにてご連絡をください。
視聴用 URL は **10 月 20 日 (木)** に事務局よりメールにてお知らせいたします。



海の日活動報告のご紹介



海や河川・湖沼の環境浄化と生物多様性回復を目的としたEMを活用した環境活動報告が今年も会員の皆様から届きましたので一部抜粋してご紹介させていただきます。

★岩手県の今村正様からのご報告です。

8月4日に海の日企画として、コロナ禍ではありますが、NPO法人三陸自然環境新産業プラットフォームの会員3人で行いました。宮古市内を流れる、山口川支流(旭湯～岩見神経内科医院)の河川浄化のため、EM団子を2,000個投入しました。16年目になります。当初あった40センチのヘドロが消え、せせらぎが舞い戻り、3～15cmのウグイ、ボラが群れをなして泳いでおります。また、サギやカモも飛来し、オニヤンマ、アカトンボが飛び回っております。



★三重県の小川敦司様からのご報告によると、三重県で実施されている白石湖浄化プロジェクトでは、今年も8月にわくわくネット三重など多くのボランティアの方々により1万個のEM団子を投入されたそうです。浄化プロジェクトが始まってから名物の渡利牡蠣がとても美味しくなっているとのことでした。9月には、さらに1万個のEM団子を投入されるそうです。



★石川県の泉崎富子様からのご報告によると、8月10日にSPCのメンバーの皆さんと共に石川県白山市の徳光海岸で恒例のEM元氣玉投入を実施されました。1,000個余りのEM元氣玉を投入されたそうです。



★沖縄県からの報告です。6月25日に地域応援団おとり会が「第3回EM団子で比謝川浄化大作戦」と題したEM団子投げを行いました。投入場所は2か所、沖縄こどもの国(沖縄市内の動物園)と、読谷村の比謝橋です。EM団子作りと投入には、沖縄市、読谷村、嘉手納町の3市町村から8団体が参加し、合計3,300個のEM団子が投入されました。



★京都府の吉彌信子様からのご報告によると、オーガニックステーションEM安土(代表:中川次代様)の皆さんと吉彌さんたちは、琵琶湖の浄化活動として滋賀県近江八幡市安土町で今年もEM団子及びEM活性液を投入されました(左の写真)。



★NPO香川県EM普及協会(会長:宮武利弘様)の野藤寺様からのご報告によると、7月20日に丸亀市飯山北コミュニティ生活環境部会飯山北婦人会の皆様と協力して、15名でEM活性液(240L)とEM団子(60個)を近くの河川や湧水に投入されたそうです。海の日に限らず各家庭から日常的に川や泉水にEMを投入されているとのことです。

★千葉県船橋市の杉浦文吾様から、コロナ下なので7月18日に一人で近所の木戸川にEM団子46個を投入したとのご連絡がありました。ありがとうございます。

事務局からのお知らせ

【事務所移転のお知らせ】

この度、本年3月に開催された通常総会で承認されました事業計画に基づき、年内の11月中旬にU-netの事務所を下記に移転することになりましたので、ご案内申し上げます。これを機に事務局業務の充実を図り、皆様のご期待に添えますよう、一層の努力を重ねてまいります。今後とも倍旧のご支援、ご協力を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

記

1. 新住所 〒901-2311 沖縄県中頭郡北中城村字喜舎場1478
2. 新電話番号 098-923-2600
3. 新FAX番号 098-923-2611
4. E-mail info@unet.or.jp（現在と同じです。変更ありません。）
5. 業務開始日 令和4年11月21日(月) 午前9時より
(下地または比嘉が対応いたします。)
6. 受付時間 平日9:00～17:00 年末年始・祝祭日を除きます。

- * 業務開始日にもし変更が生じた場合は、本会HP等でお知らせいたします。
- * 移転についてご質問などございましたら、U-net事務局までお問い合わせ下さい。

【第5回EM技術セミナー開催のお知らせ】

第5回EM技術セミナーを2022年11月4日(金) 14時～16時に開催します。

セミナーへの参加申込は10月3日(月)から当会のホームページ(<http://www.unet.or.jp/>)のインフォメーション欄から受付を開始します。お申込み専用ページからウェビナー登録頂きますようお願い申し上げます。

お申込みの締め切りは、11月3日(木)です。

なお、セミナーのプログラムにつきましては、後日、当会のホームページでお知らせいたします。

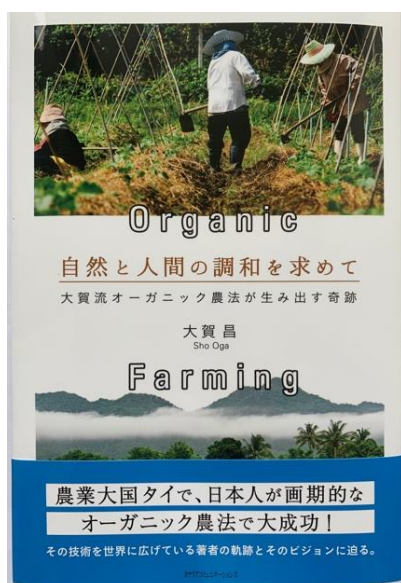
※ 第5回EM技術セミナーはU-net会員様限定の配信となっております。

ウェビナー登録時にご記入頂くお名前と、会員様のお名前が違いますと、ウェビナー登録の承認が出来ない場合がございますので、ご注意ください。また、グループ、法人会員の皆様は下記の通り、氏名に加えて、所属するグループ名または法人名を記載頂きます様お願い申し上げます。

例) 姓 名

※ ご登録頂くメールアドレスはEM技術セミナーに参加する端末(パソコン、スマートフォン、タブレット)で参加完了のメールが受信、確認できるメールアドレスをご入力ください。セキュリティの関係上、ウェビナーIDのみでの参加や、転送されたメールからの参加が出来ない仕様になっておりますのでご注意ください。ウェビナー登録についてご不明な点がございましたら、U-net事務局にお問合せ下さい。

【書籍のご紹介】



タイでEM技術を活用したオーガニック農法で多種多様な野菜やハーブを栽培され、事業家としても成功された大賀晶氏が、書籍「**自然と人間の調和を求めて 大賀流オーガニック農法が生み出す奇跡**」を出版されました。(カナリアコミュニケーションズ出版)

書籍には農業をやったことがなかった農業初心者の大賀さんがタイでオーガニック農法に挑戦した経緯、EM・比嘉先生との出会い、雑草の活用と病害虫対策ができて「オーガニック農法は難しくない。」と言えるようになるまでのことも書かれています。

第7章にはタイの農園でのEMの活用方法(EM塩活性液、EM堆肥、EMボカン、EM液肥の作り方等)が具体的に紹介されています。

EMを現場で工夫しながら結果が出るまで継続して使うことにより、雑草や病害虫が多い熱帯気候のタイで無農薬無化学肥料による野菜・ハーブ栽培法を確立し、食品加工、レストラン経営など事業拡大にも成功された素晴らしい事例だと思えます。ご興味のある方は書店やAMAZONなどで入手され読まれてみてください。

♪ 素敵なEM活性液の写真 ♪

■福島県で環境浄化活動に取り組んでおられる会員の伊東様は、自分で丁寧に作ったEM活性液に自作のラベルとパンフを付けて提供されています。今度、小学校のプール清掃にも取り込まれるそうです。



★ご存知かと思いますが・・・

比嘉理事長による最新のEM情報を知りたい方は以下の連載をご確認ください。

■EM情報室 WEBマガジン エコ・ピュアの【連載】比嘉照夫『新・夢に生きる』
https://www.ecopure.info/rensai/teruohiga/index_higa.html

■大学発ベンチャー 起業支援サイト(DND)の【連載】比嘉照夫氏の緊急提言 甦れ！食と健康と地球環境をご覧ください。
http://dndi.jp/19-higa/higa_Top.php

EM技術の科学的根拠となる学術論文や活用事例など、世界からの最新情報を知りたい方には以下のサイトが参考になります。

■EM関連論文&ニュース
<https://www.emworldnews.com>

■WEBマガジン エコ・ピュアでは、本会理事でもある柴田さんが「EM柴田農園の50からの畑人 Part.2」を連載中です。
https://www.ecopure.info/rensai/shibata/shibata02_07.html

■海外の方にEMのことを伝えたい時は、EM研究機構の英語サイトが秀逸です。
<https://emrojapan.com>